

メロン



育苗

床土(培土) → ●畑の大将<青> 3%ほどを培土に混和しておくか、1ポット当り20g程を置き肥すると、徒長せずガッシリ充実した苗ができる。

散水時に散布
(葉面散布・灌水) → ●根っ酵素500倍液 → 根を強く動かし、導管を強くし、生長を促進。
●花咲くCa液 500倍 → 茎葉を厚く充実させ、健全な体質を作る。
※台木の鉢上げ(移植)後、穂木の発芽後に(必ず両方同時に)、酵素液・Ca液を各1000倍、1~4日間隔で順次散布すると、茎が太く充実し、接木が楽になる。
※接木4日後から4~5日間隔で、最初だけ1000倍、以後500倍で交互に、葉上からタツプリ散布する。
※定植4日前には、苗の仕上げに、Ca液を散布して充実させる。

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
本畑の地力作り	なるべく早めに全面に投入して、耕耘する (土壤全体に肥料分が行き渡るように)	●ラクトバチルス600g →保水性よく、深く根が伸びやすい土を作る。 ●堆厩肥1トン(~2トン) ※もし有機物がなければ米ヌカ150kg以上。 ※堆厩肥の量が少ない場合は複合肥料を施す事。 (各成分12kg) ●硫安60kg (追肥をする場合、もし複合肥料ならN成分:12kg程度) ※チッソは有機化し、緩効的に効く。チッソを増やした場合にも、植付け時には土壤EC:0.2以下に下るので、トンネル・マルチ栽培などで追肥をしない(少ない)場合は、硫安80kg(N:16kg)を施す。 ※原則的に、土壤全層・均一に堆厩肥や肥料分を混ぜ込んで、局所施用や待ち肥のような肥料ムラ・生長のムラを無くす。このため肥料が薄まるので、硫安100kgで少追肥を推奨。
本畑の整地時	整地・ウネ作り時に全面散布 畑土全面またはウネの全面に、均等に散布し、なるべく土に混ぜる。ただしマンゾク粒状のみは株傍に撒いても可。	●畑の大将<青> 80kg ※チッソ多肥の場合は、カルシウムも100~120kgと、多くする。 ※カルシウムは開花・着果・果実品質を決定するので、多めにする事。 ●マンゾク粒状60kg →根張り・生長・肥大の促進、ネコブ線虫・萎凋病等の予防。 ※もし特に心配な畑で農薬の土壤消毒をした場合は、毒性が抜けた後に米ヌカ等に混ぜて、ラクトバチルスを補う。(同時施用可能)

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
定植時	苗のドブ漬け・定植前後の灌水 ※以降は状態により適宜繰返し	●根っ酵素2～5ℓを灌水(希釈倍率は500倍程度で適宜) →活着・深層への根張り促進。 (N成分少なく、上根でなく深い根を張らせる) ※ネコブ線虫・萎凋病の解消。茎の地際も強化され、ツル枯れも軽減。 定植前後の灌水でタップリと深く湿らせ、その後、初期は灌水回数は少なめに。 ※生長を促進し、シオレを防ぐには、7～15日間隔で葉面散布。
開花・着果前	着果前のカルシウム	●花咲くCa液500倍を葉面散布、または2ℓ灌水 ※もしも雌花が着かない、または落花するほど軟弱な場合や、雄花が少なく雌花の先のツルが長く強すぎ、節間が長いチッソ過多の場合は、急いでカルシウムを与えて、健全な体質に戻す事。 ※着果させたい節位の開花前(前節の開花期)には、必ずカルシウムを与えて、着果と果実形成を促すのが良いメロンを作る基本。 ※ただし開花・着花時には散布を控える。
果実肥大期	着果後～	●根っ酵素500倍液を葉面散布、または2ℓ灌水 ※着果後ただちに、果実の初期肥大と草勢維持・萎凋予防。 ●花咲くCa液500倍を葉面散布 ※ネット発現前に散布して、蒸らす。
仕上げ	収穫10～7日前	●花咲くCa液500倍を葉面散布 →糖度・旨味の増加